

国内製造の新型コロナウイルスワクチンによる国際貢献について

- 2021年6月に開催されたCOVAXワクチン・サミットにおいて、日本政府は、環境が整えば、しかるべき時期に、日本国内で製造するワクチンを、3,000万回分を目途として、COVAXファシリティ等を通じて各国・地域に供給していく考えを示した。
- 引き続き、国民の皆様に対する確実なワクチン供給に向けた様々な取組を進めるとともに、国際社会の新型コロナウイルス感染症との戦いにも貢献できるよう、政府方針に沿って、国内製造の新型コロナウイルスワクチンによる国際貢献に協力していく。

直接供与

- 以下の国・地域に対し、我が国で製造したアストラゼネカ社製ワクチンについて、合計約1,200万回分を無償で供与。

供与を行ってきた国・地域	供与数	供与した日
台湾	合計約300万回	令和3年6月4日、7月8日・15日
ベトナム社会主義共和国	合計約300万回分	令和3年6月16日、7月1日・8日・15日
インドネシア共和国	合計約200万回分	令和3年7月1日・15日
マレーシア	約100万回分	令和3年7月1日
フィリピン共和国	約100万回分	令和3年7月8日
タイ王国	約100万回分	令和3年7月9日

※ 表中の供与数については、単純に合計した数は約1,200万回とはなっていないが、10万回単位の端数を切捨てているため。

COVAX経由での供与

- COVAXファシリティを通じて、カンボジア、ラオス、東ティモール、バングラデシュ、モルディブ、ネパール、スリランカ、太平洋島嶼国及びイランに対して、我が国で製造したアストラゼネカ社製ワクチンについて、合計約1,100万回分を順次供与

⇒合計約2,300万回分を順次供与